

# 生産者通信

NPO法人  
米ニケーションセンター  
定価 100円(送料込)

## 平成22年産米 品質低下の要因を探る

### 富山と新潟の技術指導の違いで見えてきた品質低下の原因

「平成22年産新潟米の品質低下要因と対策について」と題して、県の研究会が1月26日に泉田知事に報告書を提出しました。新潟県の22年産米の1等比率は21.4%(コシヒカリは21.1%)と全国平均の63.1%に比べて著しく低く、本県と同様の気象条件だった北陸3県の1等比率62.1~84.4%と比べても大きく隔たったものでした。

品質低下の原因は8月から9月上旬まで続いた猛暑だったのは周知のことですが、トップブランドを誇ってきた新潟県にとつて、あまりに大きかった他県との格差はとても看過できない結果であり、新大の高橋教授を座長とする8名の委員による研究会を構成して、新潟米の品質低下要因の究明と次年度以降の技術対

策について検討を進めていたものです。報告書は24ページにまとめられていますが、この中で注目したいのは他の県との技術対応の違いです。1月27日の新潟日報には研究会報告の報道と併せて富山県の技術指導について富山県の普及指導員からのインタビュー記事が掲載されていたのを興味深く読みました。富山では、新潟ではほとんどやらなかった第1回目の穂肥を実施したことと、それを可能にした情報収集力、分析力量、そして農家への情報伝達の徹底が語られていました。

昨年産の品質低下は、玄米の基部及び背部に澱粉が十分に蓄積されないためにおきた粉状質による未熟粒の混入過多によるものです。これらの粉状質粒は出穂期の異常高温等によつて発生するといわれていますが、報告書でも昨年産の新潟は第1回目の穂肥をパスしたことで稲が栄養失調状態となり、稲の体力が低

下していたために高温による品質低下をより一層増大させたのであり、新潟県の耕土深の浅さが更にそれを助長してしまつたと分析されています。新聞報道で見ると、新潟も富山も穂肥時期の稲姿に大きな違いはなく、草丈が長かつたようですが、新潟では倒伏による品質の低下を懸念して穂肥を見送り、富山では茎数が少なかつたために過去の経験から倒伏パターンではないと判断して第1回目の穂肥施用したことで品質に大きな差がでたということになります。

そうすると新潟県の穂肥判断と指導が間違つた原因であり、問題だったということになつてしまっています。報告書では施肥管理(コシヒカリ)の項で「1回目の稲姿は穂肥が施用できる状態ではなく、妥当な判断であった」としていますが、そのことこそが新潟県の稲作の最も本質的な課題ではないかと思われま

す。従来から私自身は有機は全量元肥、他の特裁も一発肥料3<sup>kg</sup>に有機肥料を1<sup>kg</sup>程度の元肥主義で基本的に穂肥は施肥しない方針でしたが、昨年は久しぶりに有機肥料で穂肥をおこないました。茎数不足を、登熟歩合を上げることで収量を確保したかつたのであり、富山の判断と同様に茎数が少ないため草丈は長くても倒伏はしないと思つたからです。結果は11月号で報告させていただいたように、田によつて収量も品質も著しい差がありましたので、穂肥の実施の有無だけでは説明がつかないようです。

穂肥前の稲姿はどうあるべきかについては、次回に報告書の「土づくり・中干し・水管理」等と一緒に考えてみます。

\*\*\*\*\*

昨年(22年)の天候は異常でしたから、あまりも過剰反応してしまうのもいかなものかと思ひますが、過酷な条件の時に日頃の弱さや問題点が表面化するのしょうから、丁度良い機会として新潟県の稲作技術の基本について議論することは有意義だと思ひます。

それにしても今年は降雪も思ひがけないものになりました。1月いつぱい休みなしでお互いに苦労されたことでしょうか、文字通り立春とともに春の訪れを期待したいものです。

《内山常蔵記》



Agri-s の



農機メンテの部屋

年末からの積雪により各地で雪による事故、事件等のニュースが多い今冬。2月に入って農家からSOS。「ハウスが...」

有機資材リスト化について 1月に来ていた農水省からのアンケートを、まだ開封していない事に気付いて急ぎ開封したところ、有機資材のリスト化についてのアンケートが...

日から九州の3月4日まで数力所で説明会が開かれます。【連絡先】三菱総研 有機使用可能リスト化事業説明会事務局 担当:村上 03-6705-6138

同一面に転換期間中の表示があればJASマーク自体に転換期間中の表示は不要とする。これが正式改正となれば表示マークの2種類管理から各事業者は負担が軽減される。

現在、酒粕に乳酸を使用すると有機JASの表示が出来ない、みりんについては、認定事業者が管理、把握する場合に限り有機の表示を認めるとする事に国税庁が同意。改正後は、有機表示が出来るとの事。

23年産 新規需要米 コシヒカリ 生産者募集! 米粉 リコール情報 I社の昨年夏以降生産の58馬力以上の最新大型トラクタ...